

被災地支援活動の一部は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムより助成を受けています。

ボラスステ新聞

2016年度
第4号

二〇一六年
十月八日
発行

それぞれの目標に向かって

カラオケ演芸大会



二〇一六年六月二五日、尚絅学院大学多目的ホールにて、カラオケ演芸大会が開催されました。拍手や掛け声で会場が一つになる場面もあり、仮設住宅間の壁を超えたイベントになったと感じます。今回の新聞は、カラオケ大会に初めて参加した学生二人に書いていただきました。



初めは緊張していたのですが、仮設住宅の皆さんが明るく挨拶をしてくださったので、救われた気持ちになりました。そして、気さくに名前を呼んでくださったので、とても和やかな雰囲気交流を楽しむことができました。

カラオケ大会に出場する方々の中で、選曲理由を話して下さった方がいました。大好きな歌手の曲で、鎮魂の意味が込められているのだそうです。その歌手のコンサートを鑑賞して、2ショット写真を撮ったことなども嬉しそうに話してくださいました。また、ただ楽しむだけでなく、本気で優勝を狙う意気込みなども感じられ、心を打

たれたのを覚えています。

いろいろな想いでこの場にいる皆さんのために、いま必要とされていることを全力でしてあげたいという気持ちが大きくなりました。短い間ではありましたが、ボランティア活動を通して、人の温かさに触れ、交流を深めることができました。貴重な時間と経験を、これからに活かすことができればいいと思います。

(人間心理4年 遠藤葵)

朝の準備の段階から、楽しみにしている、仮設の住民の方々がいらつしゃいました。「楽しみに待っていたんだよ。」と言っていただき、気が引き締められました。開会すると、次々に響き渡る住民さんの歌声に、この日のために一生懸命練習してきたことが伝わり、終始圧巻させ



皆さん思い思いの
発表をしてくださ
いました♪♪

られたばなしでした。学生も負けずと、ダンスや歌で会場を盛り上げました。

結果発表の前には皆が一つになり、「365日紙飛行機」を踊り、絆というものを強く感じることもできました。結果発表では、もはや出場された方全員が優勝なのではと思いましたが、そこは勝負ごと。入賞された皆さん、おめでとうございます。

楽しい時間もたけなわ、終わりの時間がやってきました。住民さんが笑顔でバスに乗り込むのを見て、いい時間を作ることができた達成感から胸を撫で下ろすことができました。

しかし、今回は交流の少なさという部分で反省が多くあったので、次の活動では、盛り上げることや楽しませることだけでなく、住民さんのそばで過ごす時間を増やしたいと思いました。
(人間心理3年 高橋敬)

編集 後記

先日、ボラステの中で「寄り添い」って何だろうという話になりました。相手を思うこと、気持ちの共感、一緒に前を向くこと、歩幅を合わせること、家族のようなもの、希望になること……たくさん出てきました。体が触れるほどぴったりとそばによるという辞書的な意味ではなく、相手の心に入るような、そんな寄り添いの活動ができたらいいなと思いました。(表現文化学科4年 渋谷佳代)